

寺島実郎さん番組のYouTube再生

33万回突破

21日放送は「鬼滅」がテーマ

寺島実郎・日本総合研究所会長のYouTube配信の再生数が、累計三十三万回（二月八日現在）を突破した。テレビ番組「寺島実郎の世界を知る力」のYouTube配信だ。今月二十一日放送では、大ブームの『鬼滅の刃』に映し出された日本の今を語るといふ。



漫画「鬼滅の刃」の大ヒットの理由と現在の日本社会について話す日本総合研究所会長の寺島実郎さん

番組は東京MXテレビで昨年十月に始まった。同時にネット視聴できるほか、放送後にはYouTubeにアップされる。毎月一回、これまでに四回。最もYouTube再生が多かったのは、戦後日本の出発点をテーマに重光葵外相を語った十一月で十三万五千回。硬めの番組では、一月にTBS系「報道特集」が配信した約十五分の台湾IT相インタビューも二十七万回と再生数を伸ばしたが、こうした傾向を寺島さんは「コロナ禍で多くの日本人が本当のことを知りたいと思いついたのは」とみている。

寺島さんの番組は約一時間の一人語りで、ポイントは「全体知」。歴史観と、思想・哲学・宗教といった価値観を土台にし

「全体知」を深める1時間一人語り

ている。

今月放送の前半は、漫画・劇画に映る戦後日本の社会がテーマ。刀を使わない「真空斬り」が得意技の『赤胴鈴之助』には戦後平和主義、小型原子力ロボットが活躍する『鉄腕アトム』には科学への信頼をみている。『千と千尋の神隠し』では、千尋がグローバル化という異文化接触を乗り越える象徴だという。

そして、「何を語るか夜な夜な考えている」と言っのが『鬼滅の刃』だ。

「日本人にとって鬼は常に外にあった。鬼になった妹を助けたという少年には、今の日本人の本音を感じる。新自由主義とグローバル化に対する疲れが表れているのではないか。鬼の弱点が日光で、首を斬ると鬼を

殺せる日輪刀には、さりげないナシヨナリズムも見えます」

番組の後半では中国を語る。放送は二十一日（毎月第三日曜）午前十一時（東京MXテレビ）。同時に無料アプリ「エムキヤス」で配信。後日、YouTubeで視聴できる。検索は「寺島実郎 世界を知る力 YouTube」。（中村信也）

